

午後Ⅱ試験

問 1

問 1 では、シンクライアントを使った分散オフィスの要件に基づいて、インターネット VPN 方式、PC の仮想化方式、アクセスセキュリティの実現方式について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 1 は、NAPT 環境でインターネット VPN 方式を使う場合の課題に関して出題したが、設問 1(2)の正答率は低かった。カプセル化と NAPT 動作の仕組みを踏まえ、相互の影響への理解を深めてほしい。

設問 3(3)は、仮想 PC を別のサーバに移行したとき、L3SW に対してどのような通信を行えば切替指示ができるかを問うたが、正答率は低かった。スイッチの基本的な動作の仕組みは理解していると思われるので、さらに、その知識の応用力を付けてほしい。

設問 5(1)の認証スイッチとして動作するスイッチに関する出題であったが、正答率は低かった。VPN トンネルの生成動作と認証スイッチの関係が理解できていないように思われる。複雑に見える動作でも、それを構成する要素動作を確実に把握してほしい。

問 2

問 2 では、ネットワークシステムの変更について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 と 2 は、TCP/IP に関する基本的理解を問うた。全般に正答率が高かったが、VRRP に関する小問（設問 1(5)）は正答率が低かった。LAN の冗長化は一般的だが、具体構成での技術的理解は不十分だと思われた。要素技術は基礎的なものであり、もう一度しっかり勉強していただきたい。

設問 3 はネットワークセキュリティに関して出題した。プロキシと TLS, NAT との関係に関する小問（設問 3(2), (3)）は正答率が低かった。いずれも典型的なネットワークの制約に関する問いであり、初見でも、通信プロトコルの階層に着目すれば正答にたどり着けるので、落ち着いて取り組んでほしい。

設問 4 は構成管理に関して出題した。正答率は高く、受験者の実務経験が伺われた。

設問 5 では技術課題の発見と解決に関して出題した。問題文全体にかかわるものもあり、てこずった受験者が多かったようだ。負荷分散装置の代替手段に関する小問（設問 5(3)）は、正答率が低かった。冗長化や負荷分散の方式には、クライアントによる方式（プライマリ・セカンダリサーバの設定など）やネットワークによる方式（DNS ラウンドロビンなど）も一般的である。再度、整理し直してほしい。